

令和3年産 美里地区の大豆情報

大豆パワー!!



第3号 令和3年10月26日

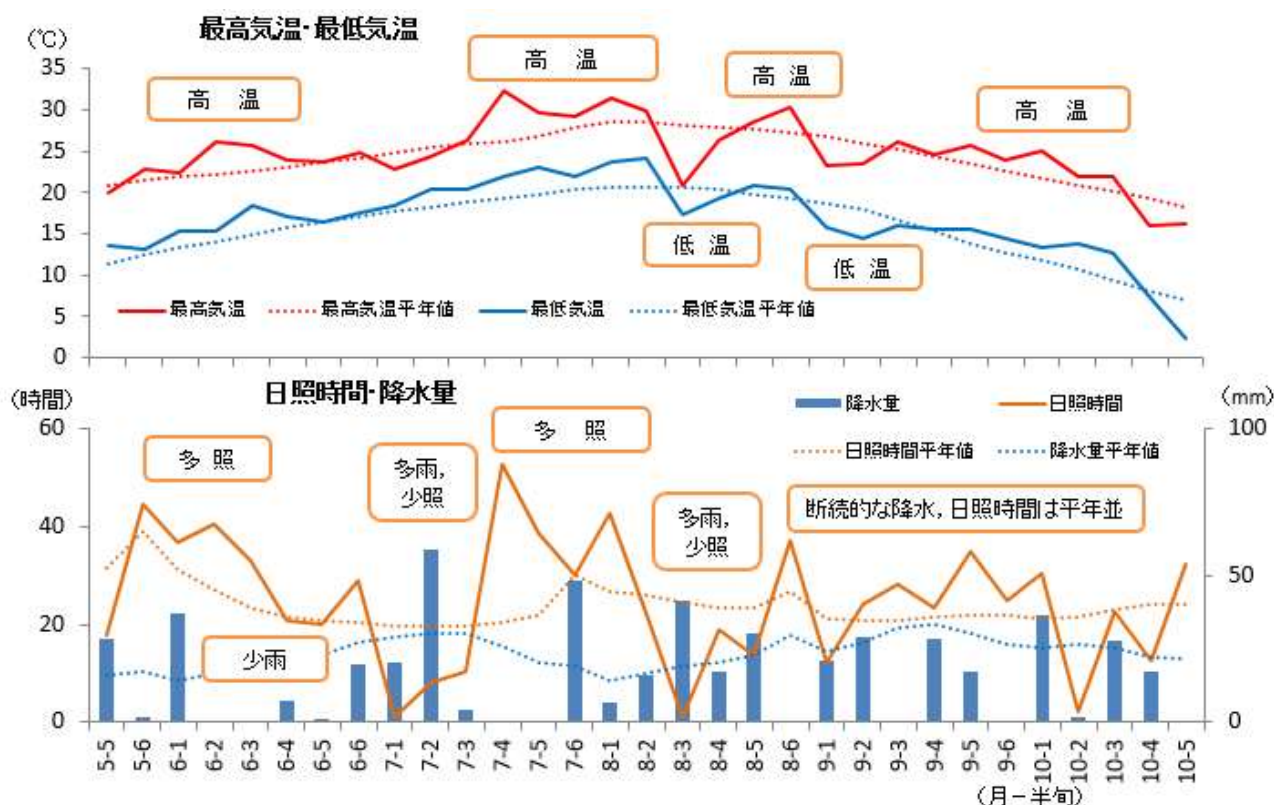
宮城県美里農業改良普及センター

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

1 気象経過及び生育状況



【本年産大豆の生育の特徴】

【標播】

- ・5月下旬～6月中旬播種では気温や降水量等気象条件が良く、出芽揃い・初期生育は良好となった。6月下旬播種では過乾燥気味となり、出芽の遅延やバラツキが見られた。
- ・6月第6半旬～7月第2半旬にかけ降雨・日照不足となったため、6月上旬播種以降のほ場では中耕培土や除草等の管理作業が遅れ気味となった。
- ・7月第3半旬～第5半旬は好天となり、管理作業の遅れや生育は概ね回復できた。
- ・8月第3半旬頃から低温・少照傾向となり、生育の遅かったミヤギシロメを中心にやや蔓化・倒伏の傾向となったほ場も見られた。
- ・開花期間は適度な降水があり、開花・着莢は概ね良好な傾向。
- ・タチナガハは10月上旬から落葉が、ミヤギシロメは中旬から葉の黄化が見られる。

【麦後晩播】

- ・大麦後作は播種条件が良好で、その後の生育も概ね良好。小麦後作は降雨の影響で播種が7月中旬以降となり、さらに、8月の低温・少照の影響で生育量確保が遅れたところが多くなった。10月中旬から葉の黄化が見られる。

2 今後の管理

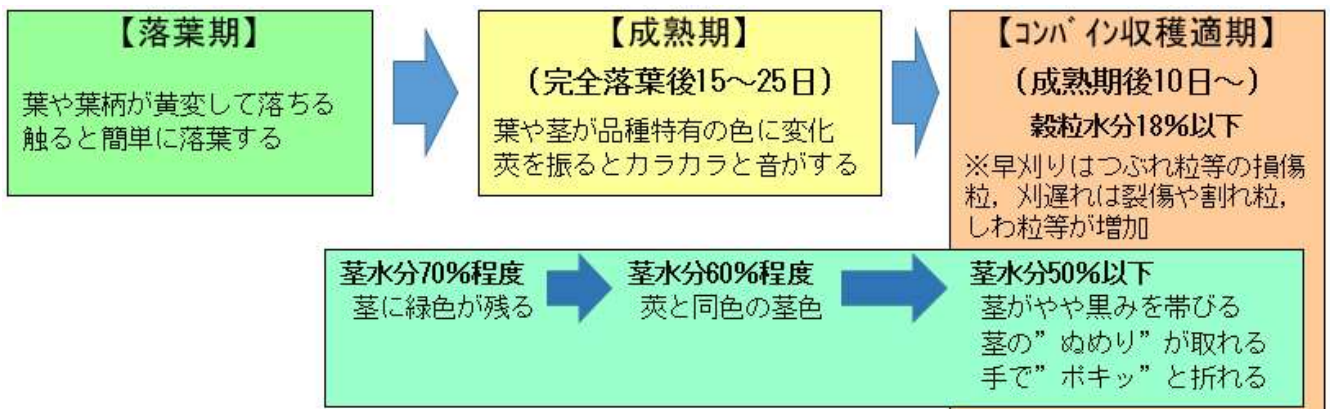
(1) 排水対策 急な大雨に備えましょう

- ・近年、大雨等の気象災害が多くなっています。雨後でも一日でも早くほ場に入って作業ができるように、排水溝や明きよの点検・整備を実施しておきましょう。

(2) 雑草抜き取り 汚粒発生防止のため収穫前にほ場をきれいにしましょう

- ・本年は、天候不順により生育期間中の雑草防除が後手に回ったため、残草が多い傾向となっています。茎水分が高く、収穫時の汚粒発生の原因となり易い、アメリカセンダングサやタデ類、シロザ、イヌホオズキ等の雑草は刈り取りまでに抜き取っておきましょう。
- ・抜き取り作業をしなかったり、実施しても時期が遅い場合は、雑草が成熟して多くの種子をほ場に落としてしまいます。雑草の成熟状況も勘案して作業計画を立てましょう。
- ・大豆の青立ち株も汚粒の原因となります。特に、莢数が著しく少なく、葉や茎が緑色のままの青立ち株は、収穫時期までに茎水分が低下しないので必ず抜き取りましょう。
- ・抜き取りした雑草は、種子を落とした可能性が大きいので、雑草の種類をほ場ごとにメモしておき、次の大豆作の雑草防除に役立てましょう。

(3) 収穫時期の判定 葉の黄化や落葉時期等を観察して収穫時期を計画しましょう



(4) 収穫作業 穀粒損失や損傷・汚粒発生による収量・品質低下を防ぎましょう

- ・大豆では「収穫時の穀粒損失」が大きな減収要因となる場合があります。作業開始時や休憩時に収穫状況を確認しましょう。
 - 刈残しロス : 刈取高さを調整
 - 頭部損失(ヘッドロス) : リールの位置・速度と作業速度の調整
 - 後部(排出)ロス : こき胴の処理能力と作業速度の調整
- ・収穫時の穀粒水分が「高い」と「つぶれ粒」が、「低い」と「裂傷や割れ豆」が増加します。収穫時の穀粒水分(15～18%)を確認(子実に爪を立てると少し痕が残る)
- ・「汚粒」発生による品質低下を防ぎましょう。
 - 土の掻き込み : 刈取高さは約10cmに調整、安定した収穫のできる運転技術
 - 雑草や大豆の青立ち株 : 前日までに抜き取りを終了
 - コンバイン内部の汚れ : 収穫前後に掃除、土掻き込み時の速やかな作業停止・掃除
 - 収穫時刻 : 茎や莢が乾いている時間帯(11時～16時)に収穫

◇◇◇秋の農作業安全確認運動実施中(9月1日～11月30日)◇◇◇
令和3年度テーマ 「見直そう! 農業機械作業の安全対策」